

プラさんぽ特集!

1月・2月に行ったプラスチックなスポットのまとめ

1月・2月は日置市を飛び出し、プラスチックなスポットを訪問することの多い期間でした。年始は東京の実家に帰省して、東京周辺のスポットに。1月下旬から2月上旬にかけてはインドネシアのジャワ島・バリ島のスポットに。各地で見たもの・出会った人から刺激をもらいました。オカピが「プラさんぽ」で訪れた場所を、こちらで少しだけご紹介します。

buoy (ブイ)
 プラスチック製品の開発等を行う株式会社ノラボが手掛ける buoy (ブイ)。横浜にある直営店において、邪魔しました。 buoyさんは、全国の海岸で拾われた海ごみを材料として買い取り、色とりどりの製品を製作・販売されています。商品タグには材料が拾われた場所と、拾った団体のプロフィールがわかるの「レコード」が記されています。ゆかりのある産地(?)の製品を選ぶお客さんも多いんだとか。
 デザイン性が高い製品が多く、「私もこんなもの作りたいいな!」と刺激を受けました!



Green Mind Labo Pebbles (グリーンマインドラボ ペブルス)

代表の太田さんと環境問題への向き合い方や活動の内容などについて、たっぷりおしゃべりをしてきました。その様子は、太田さんの ZINE「Pindome」2号にまとめられています! 気になる方はぜひご購入を。

東京都調布市にあるグリーンマインドラボ ペブルスさんは、「環境問題に対して、私はなんて非力なんだ!」と悩む「エコ不安症」の気持ちを解きほぐすコミュニティスペースです。



東京周辺でプラさんぽ



森美術館で行われた「私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために」という展覧会でも、プラごみが材料として使用されている作品がありました。30年前に製作された作品に使われたプラごみは、元の色を保ったままでした。「朽ちない」プラスチックの凄みを感じます。

アートシーンにもプラごみ

プラごみで構成された、虫のような形の作品もありました。死んだらすぐに他の生き物に食べられてしまふイメージのある虫が、プラスチックで作られることの違和感から、プラスチックという素材の不自然さを感じました。私もこういう「引っかけ」製品を作りたいものです。



オカピが東京・インドネシアでプラさんぽをして：再生プラ製品がキレイすぎるかもしれないと思いましたが、集められるプラごみは、汚れているし、いろいろな種類が混ざっていても、そこから、洗って、選別して、砕いて、溶かして、仕上げをして、新たな製品になるわ

.....さんぽをしてみても.....

けです。そこにかけてられるエネルギーは決して少なくありません。でも、完成した色とりどりの製品は、魔法で一瞬のうちには作られたようにしか見えないのです。製品の裏に隠れる、ごみ処理やリサイクルの「コスト」や「面倒さ」を伝えられる仕掛けを探っていきたいです。